

◆令和6年1月～9月事故の状況◆

【事故の特徴】

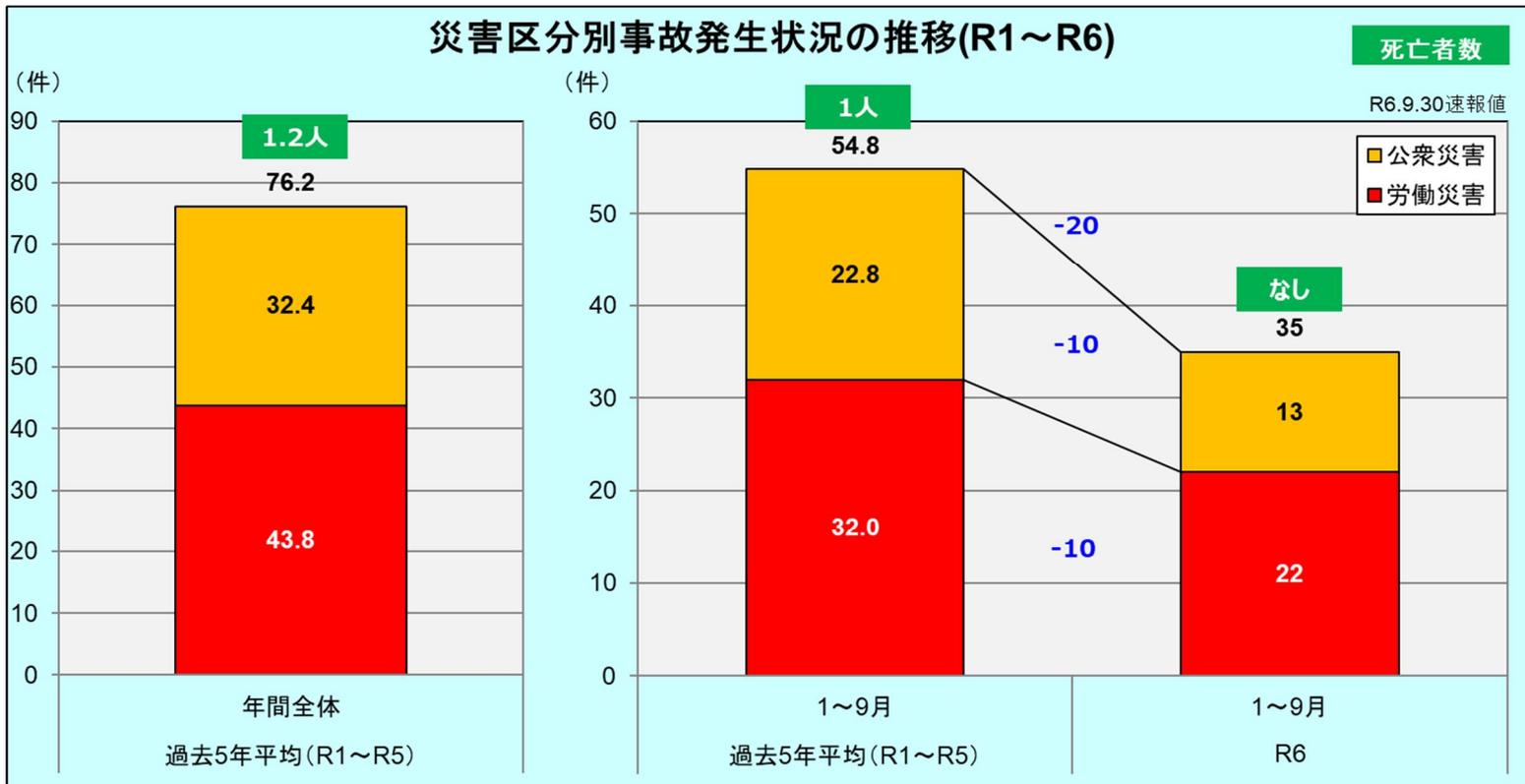
- ☆労働災害と公衆災害を合わせた事故全体の件数は、35件発生しており過去5年平均に比べ20件減少しています。
- ☆労働災害は22件。工具取扱いの事故が増えてきています。
- ☆休業4日以上労働災害は6件発生しています。

- これからの季節は日没が早くなり、寒さも徐々に厳しくなるなど、作業現場は大きな影響を受けます。
- 本格的な冬が来る前に、必要な用具等の確保、設備の点検やタイヤ交換、冬季環境下における労働災害・公衆災害の安全教育等を行いましょう。

※北陸地方整備局発注の直轄工事を対象としています。
※使用している数値は速報値であるため、今後変更となる可能性があります。

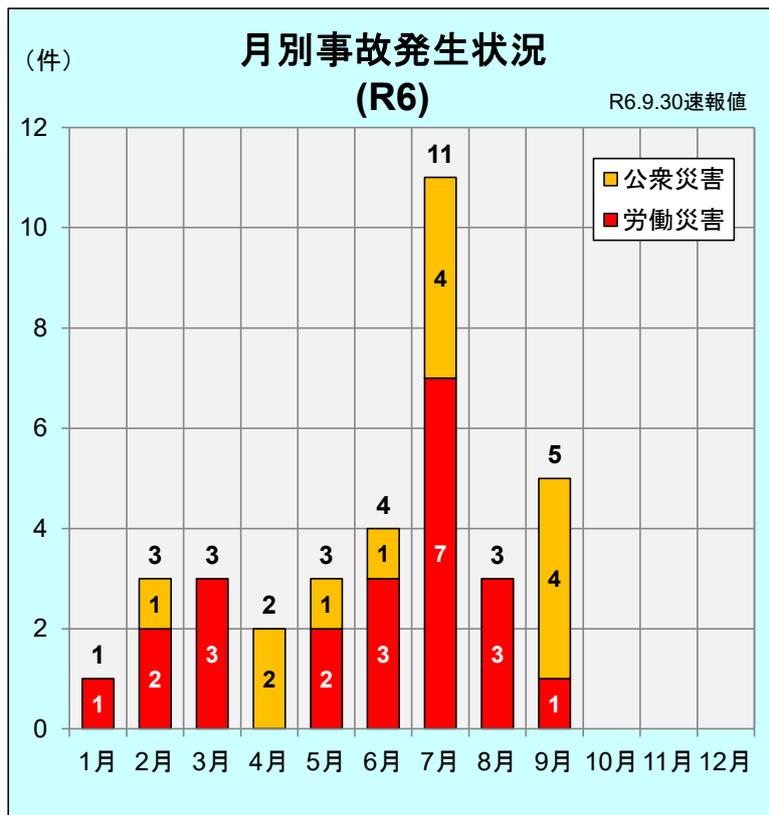
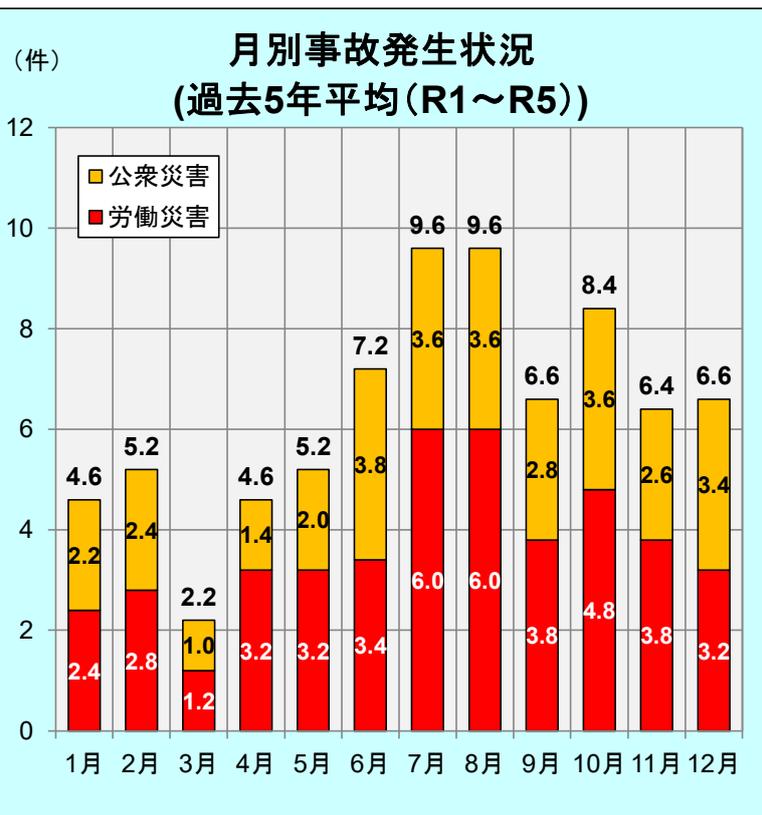
～工事事故の発生状況～

令和6年1月から9月までの事故件数は35件で過去5年平均と比較する20件少ない状況です。労働災害は22件、公衆災害は13件発生しており、過去5年平均と比較してともに減少しています。



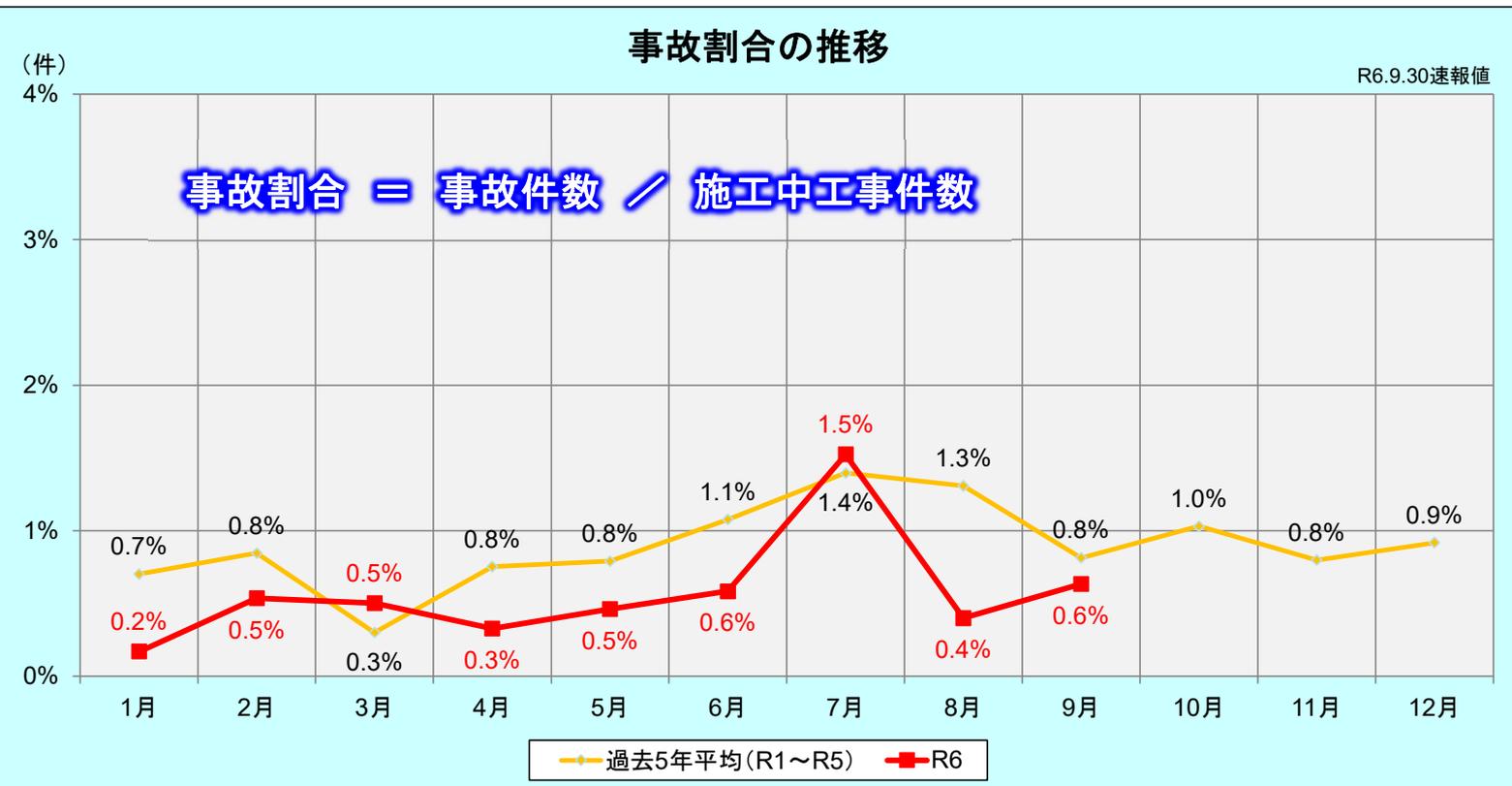
・月別の事故発生件数

過去5年平均と比較すると、7月が増加しています。



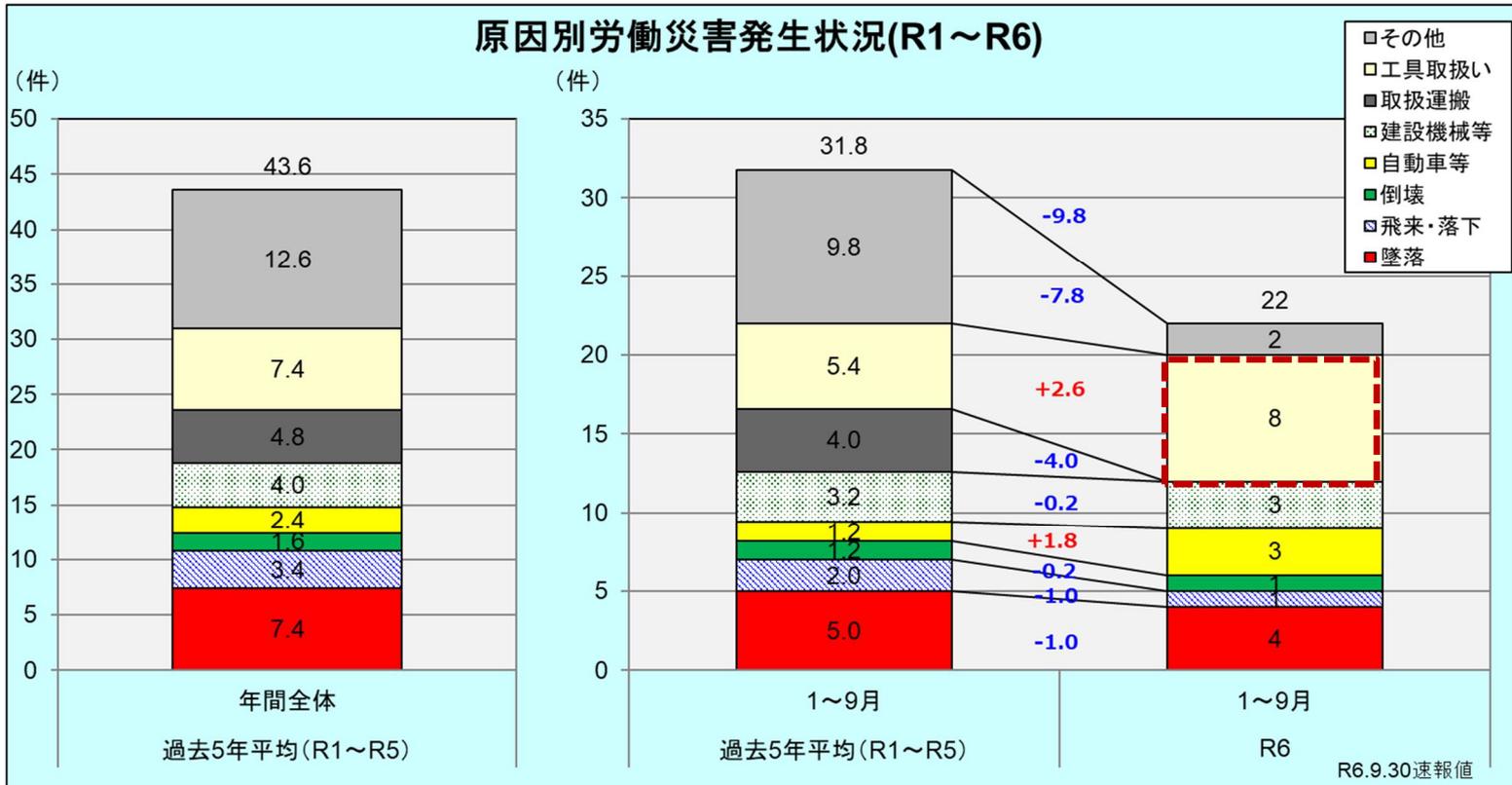
・事故割合

過去5年平均の事故割合の推移と比較すると3月、7月は増加しているものの他の月は減少しています。



・労働災害の原因別事故発生件数

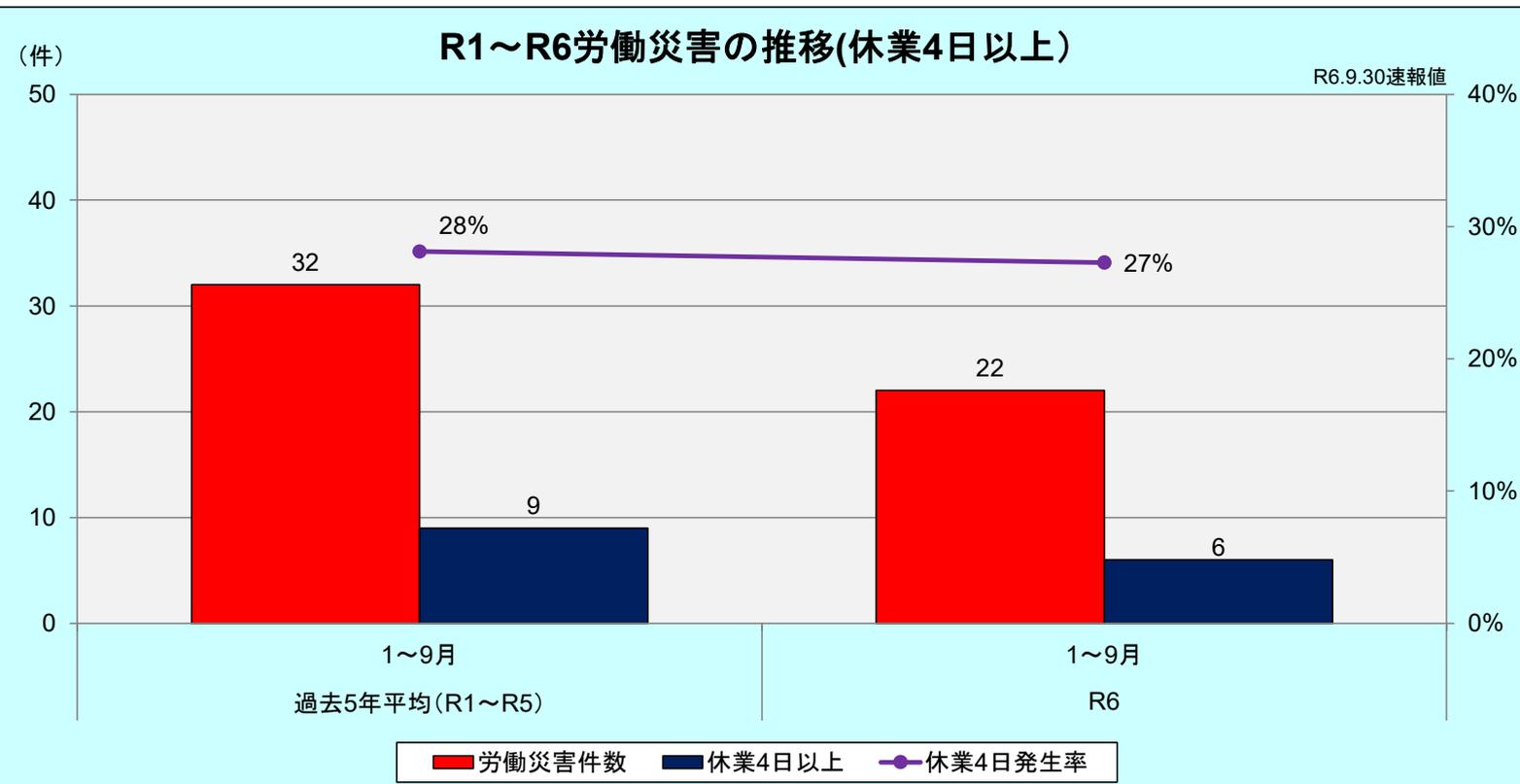
令和6年1月から9月までの労働災害のうち、原因別で多い事故は工具取扱いとなっており、過去5年平均と比較しても増加しています。



※その他: 転倒、土砂崩落・電気・爆発・港湾・その他事故等

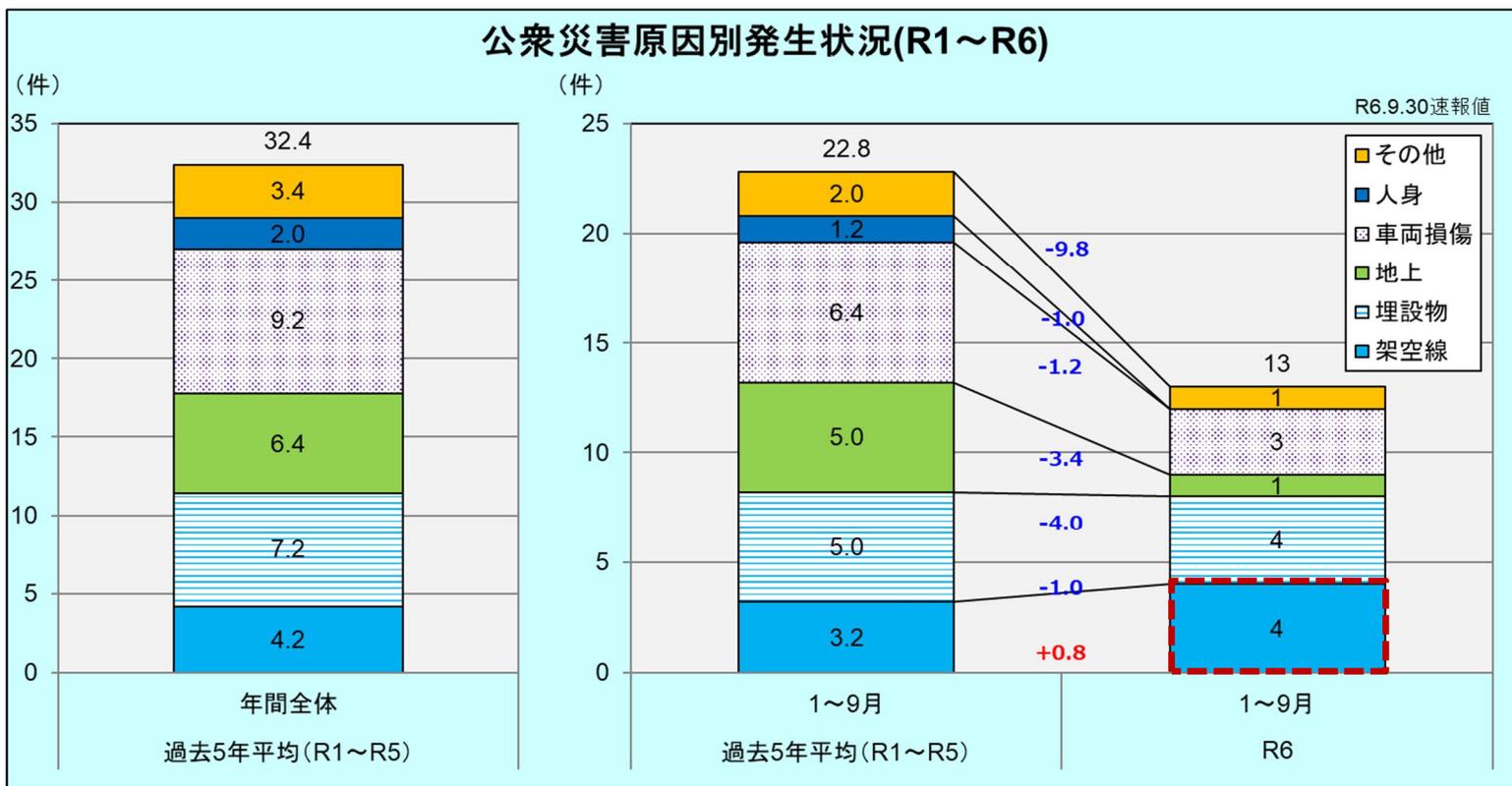
・休業4日以上 の事故発生状況

今年1月から9月までの労働災害22件のうち、6件が休業4日以上 の事故となっています。過去5年平均と比べると重大事故の割合はほぼ横ばいで推移しています。



・公衆災害の原因別発生状況

令和6年1月から9月までの公衆災害は過去5年平均と比較すると減少していますが、架空線事故は増加しています。



休業4日以上は建設工事事故データベース（SAS）に登録

- ・建設工事事故データベース（SAS）は、地方整備局・都道府県・政令指定都市・機構等が発注する公共工事で発生した一定規模以上の事故の事故報告データの集合体です。収集されたデータは、建設工事事故対策検討委員会や発注者において、工事事故防止に向けた対策の検討・立案に利用しています。
- ・休業4日以上の建設工事事故等を対象に、登録に必要な事故番号、パスワードを発注担当課長等に通知しますので、受注者・発注者は、インターネットを利用して登録（入力）してください。

✓ <https://sas.hrr.mlit.go.jp/>



- ・登録に関する詳細については、ホームページ内の「SASのガイドライン」を参照して下さい。

【問合せ先】 北陸地方整備局 企画部 技術検査官 山崎

冬季特有の労働災害、 公衆災害を防止しましょう



北陸地域の冬は、降雪や寒さにより労働現場の環境が大きな影響を受けます。積雪や凍結による「転倒」などの災害、路面の圧雪・凍結による車両のスリップ事故災害、除雪作業中の様々な災害など、『冬季特有』の災害の発生に注意を払う必要がある季節です。

これらを防止するために、現場における安全に対する意識や取組について再度確認し、また、冬季に発生する労働災害・公衆災害の特徴を熟知して、降雪前に、あらかじめ適切な対策や注意喚起、安全教育を講じて、冬季でも安心・安全に働ける現場を築き、厳しい冬を乗り越えましょう。

あなたの職場は大丈夫？		
凍結等による転倒のリスクをチェックしてみましょう		
チェック項目		
1	積雪、凍結時に転倒のおそれのある場所は、事業場内で認識していますか	<input type="checkbox"/>
2	除雪用具、融雪剤、転倒防止用マットを準備していますか	<input type="checkbox"/>
3	段差のある箇所や滑りやすい場所などを、転倒危険場所として「見える化」していますか	<input type="checkbox"/>
4	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
5	「ながら歩き」や走っての移動、ポケットに手を入れたまま歩くことなどを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
6	屋外通路や駐車場等における転倒防止のため、滑りにくい靴や手袋の着用を推奨していますか	<input type="checkbox"/>
7	降雪、凍結前に労働者に対し、転倒を予防するための教育・指導等を実施していますか	<input type="checkbox"/>
8	降雪、気温に関する気象情報を把握し、注意喚起を行うための体制を確保していますか	<input type="checkbox"/>

厚生労働省長野労働局ホームページ 冬季労働災害防止特設コーナー

今冬の降雪量「平年並みか多い」

今冬（12月～来年2月）の寒候期予報によると、日本付近では上空の偏西風が平年よりも南に蛇行するため、冬は日本に寒気が流れ込みやすくなるため、北陸地方では冬型の気圧配置が強まり寒気の影響を受ける時期があるため、冬の降雪量は平年並みか多いとしています。

大雪となる可能性が例年より大きいことから、冬に向けた準備や最新の気象情報に留意をするよう万全の対策を行ってください。

冬（12月～02月）の平均気温・降水量・降雪量

